

れいわ ねんど
令和3年度

だい かいこさいしたぶん かきょうせいしやかいすいしんきょうぎかいかいぎろく
第1回湖西市多文化共生社会推進協議会会議録

きろくしゃ しみんか こばやし
記録者 市民課 小林

にちじ れいわ ねん がつ にち すい
日時：令和3年8月4日（水）14：00～16：00

ばしょ こさいしやくしよいんかいしつ
場所：湖西市役所委員会室

しゅつせきしゃ な わ きよたか いだふみお いけがやいさお しげい むらおか おかだてるあき
出席者 名和聖高、飯田文雄、池ヶ谷 勲、重井アマンダ、村岡フオン、岡田輝昭、
なかむらてつや にしかずひさ いひひでのり みやざきこうじ つじむらふみこ
中村哲也、二橋和久、猪井英典、宮崎幸治、辻村文美子

しむろく しみんあんぜんぶちよう しみんか かちよう かちようだいりけんかかりちよう しゅさ
事務局 市民安全部長、市民課（課長、課長代理兼係長、主査）

1. 開会

2. 市民安全部長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員・事務局自己紹介

5. 会長及び副会長の選任

かいちよう こさいしたぶん かきょうせいしやかいすいしんきょうぎかいせつちようこうだい じようだい こう きてい
会長：湖西市多文化共生社会推進協議会設置要綱第4条第2項の規定により

がくしきけいけんしや な わ きよたかいいん せんにな
学識経験者である名和聖高委員を選任

ふくかいちよう じようこうだい じようだい こう きてい かいちよう いひひでのりいん しめい
副会長：要綱第4条第3項の規定により会長が猪井英典委員を指名

議題1. 湖西市多文化共生推進プラン 令和2年度取り組み状況報告

【資料1】【資料2】【第2次湖西市多文化共生推進プラン】

じむきよくから しりよう しりよう せつめい れいわ ねんど こさいしたぶん かきょうせいしん とりくみじようきよう
事務局から資料1、資料2説明により、令和2年度湖西市多文化共生推進プラン取組状況を報告。

しつもん いけん
質問・意見

(委員)

きほんしやく せつめい へんにゆう じどうせいと つうねん し じぎよう
基本施策2,3の説明にあった編入する児童生徒への通年プレスクールを市で事業として
て確立していただいた。れいわ ねんど かいこさいしやくしんきょうぎかいの じしゅじぎよう おこな
令和元年度まで湖西国際交流協会の自主事業として行っていた
ころは、たくさんのこどもたちが利用してニーズを感じていたが、れいわ ねんど しんがた
令和2年度は新型コロナウイルスが流行し、にゆうこくしや げんしよう じつせき すく
入国者が減少したため、実績も少なかった。

しかし、しんがた 新型コロナウイルスの流行が収束した後には、プレスクールがひつよう こども
たちが多くなるという傾向が出てくると思うので、事業としては継続していただきたい。

(会長)

システムをつくっても、しんがた 新型コロナウイルスが流行している状況ではさまざまな面でせいやく あた
てくるが、システムを作らなくてもいいわけではない。ポストコロナを見据えてシステム
をようい じゆうよう
を用意しておくことは重要。

(委員)

【資料1】13 ページに外国人市民の登用について(市民課)の実績の内容がよくわからない。また、外国人総合窓口の通訳を含めた人数となっているのか。

(事務局)

外国人市民の登用人数に外国人総合窓口等職員は含めていない。登用人数に含めているのは、こちらの多文化共生社会推進協議会の委員をはじめ、男女共同参画審議会委員、防災指導員等へ就任いただいている方の人数になっている。また、同じ方が複数の委員になっている場合もあるため、実人数は6名となっている。

議題2. 第3次湖西市多文化共生推進プランについて

【資料3】【第3次湖西市多文化共生推進プラン】

事務局から資料3を用いて第3次湖西市多文化共生推進プランについて説明。

《質問・意見》

(委員)

湖西市内で外国人が増えているという説明があった。特に新居地区の外国籍住民が増えていると思う。それに伴って、おそらく子どもの人数も増えていると思う。第3次プランP27基本施策3,子どもの教育環境の整備-16「日本語の学習支援」にある加配教員の配置や取り出し授業での対応は、新居地区の学校でどのように実施されているか。

(委員)

新居小学校に加配教員が1名配置されていて、取り出し授業での指導をしている。昨年度は、コロナの影響があり編入する児童・生徒は少なかったが、ここ数年は、新居小学校、新居中学校への編入が増えていると感じている。

(委員)

第3次プラン P27基本施策3,子どもの教育環境の整備-16「日本語の学習支援」に「在籍学級における支援」とあるが具体的にどのような支援を行っているのか。

(委員)

取り出し授業が多いかとは思いますが、在籍学級に入ってそばにいて外国籍児童生徒の支援をすることが多い。

(委員)

支援員が行っているか？

(委員)

支援員ではない。

議題3. 意見交換

(会長) 議題1、2を踏まえ、また、委員の皆様が日頃多文化共生について感じていることや経験されていること、プランへの意見など、ご自由に発言をいただきたい。

まず、本日欠席の委員から事前に意見を頂戴しているので事務局から紹介をお願いする。

(委員意見紹介)

数年前と比べて、タイから来ている実習生は少ないと聞いています。今、湖西市に住んでいるタイ人のほとんどは日本人と結婚して日本にきています。日本語がよくわからない人も、上手な人もいます。知り合いの紹介で湖西国際交流協会で知り合ったり、タイ人のコミュニティは小さなコミュニティになっています。生活で困ったことや子育てのことでわからないことは、日本に長く住んでいるタイ人の友達や仲良くなる日本人のママ友からサポートしてもらっていることが多いようです。YouTubeで外国人のための生活ガイドDVDがあるので紹介しました。みんなからは、わかりやすかったという意見が多かったです。

(会長)

先ほど外国人市民が増えているというお話がありましたので、それについて自治会の立場でのご経験や、行政へのご意見などありましたらご発言いただきたいと思えます。いかがでしょうか。

(委員)

表 鷺津は11の町内から構成されている。町内によっては、住民の8割が外国人というところもある。外国人コミュニティそのものが自治会の組織運営に組み込まれているのが実態。毎月の定例会に出ていただくときには、説明を同じアパートに住んでいる程度語学もできる日本人がサポートをしていただくという形態ができている。活かし方によっては求めている方向に向かっていくのではないかという気がしている。

(委員)

あけぼの自治会は、外国人の方の増加率が非常に多い。中でも、アパートに住む方が多いので、自治会がその方たちの中へなかなか入りこめていない。アパートの管理者からまとめて自治会費が振り込まれてきて配布物を回しているだけで、組長さんを出してもらっても出来ないし、人の入れ替わりも頻繁にあるため、名前の登録も出来ない。

子どもがいる家庭では、バス停までの見守り隊活動に参加したり、子ども同士は日本人外国人関係なく遊んでいたりする様子は見られる。しかし、大人や単身の外国人市民との交流はほとんどできていない。本来は、公園の草取りに集まってもらった時に交流したり、交流の場を作らないといけないなと思ってはいるが、つながりを持てるような状況になっていない。そこをどうしたらいいのかと思っている。

プランはわかるが、プランの行動計画が見えない。いつ、どのタイミングでどういうこ

とをやるのか、1年目はこのくらい、2年目はこのくらいのことを、大まかで良いので示すとわかりやすい。

(会長)

確かに、1年ごとのアクションプランは必要になってくるかもしれない。

(委員)

第3次プラン P23基本施策1, 情報提供の充実-7「外国語通訳者派遣事業」の内容を詳しく知りたい。

(事務局)

通訳や翻訳ができる方に登録していただき、活動していただいた場合に報酬をお支払いしている。ポルトガル語・スペイン語以外での市からのお知らせの翻訳や、市の通訳が行けない場での通訳の依頼をしている。

(委員)

一般の住民の方が通訳を必要な場合に派遣していただける制度か。

(事務局)

一般の住民の方が利用できる制度ではない。市に関係している事業で翻訳や通訳を依頼する制度となっている。

(委員)

湖西国際交流協会以外の日本語教室もあるか。

(事務局)

厚生労働省委託事業として JICE がアルカミーノで行っている「しごとのための日本語教室」、静岡県主催で中央図書館で行っている「技能実習生のための日本語講座」がある。その他個人的に教室で教えている方もいる。

(委員)

課題の内容については、どの内容も大切だと思いながら聞いていた。日本語支援が必要なのはどこの地域でも同じで、勉強する場が少なかったり、時間が合わなかったり、アンケート結果からは勉強をしたいけれどなかなかできていないところが見えたので、例えば通信講座で勉強している人もいるので、そういった方に支援金などが出たりしたら勉強しやすいかなと思う。

情報のところで、市のホームページに「外国人のみなさんへ」というページができたのはわかったがトップページには出ていないので検索しづらいと思う。

私は主に浜松で活動していて、浜松市では最近母国での活躍を仕事に活かせるよう、日本人スタッフが働きかけて、就職の場を広げるという取り組みをしている。この取り組みによって何名かが、銀行員や正社員として勤めることができたということで、すばら

しい取り組みだと思うので紹介させていただく。

(委員)

ベトナム人は湖西で増えているが、市役所に行くときはわからないことがたくさんあるので案内が必要。子どもを幼稚園に入れるときの説明もほとんどわからなかった。翻訳や通訳をしてほしい。

(委員)

今まで外国人の方と仕事をした経験から、正しく伝えて理解してもらうこと、相手のことを正しく理解することが大切だと感じている。その発展が共生になっていくと感じている。

外国人が在留する目的としては、仕事をしたいということが多いと思う。仕事を先に見つけて住むところを見つけることになる。技能実習生や派遣で働く方に対して、監理団体や実習先の企業、派遣元や派遣先など、就労に係る関係者と協力していくことが大切。日本語、行政サービス、日本のルールや生活に必要なことを、入り口でうまく伝えていく体制があるとやりやすいと思う。それに加えて、SNSを使った情報伝達も必要。

(委員)

先ほどの意見にもあったようにプランの基本的な内容はいいと思うが、1年間の具体的な実施内容は明確にしていく方がいい。

AI翻訳、ビデオ通訳の活用研究のテーマがあるが、毎回翻訳をすることはやっているが、AI翻訳や自動翻訳を徹底的に活かしていく方がいい。例えば、タイ人は少ないので湖西でなかなかタイ語は見かけない。そういった少数言語もAIや自動翻訳を活かしていけばかなりコミュニケーションをとれるようになるのではないかな。重点的に専門家に依頼したり、全国の自治体の研究を徹底的に行えば、もっとよくなると思う。

湖西は基本的に製造業の街。これから先も製造業は生かしていかないといけない。製造業は、外国人がいなければ成り立たない。外国人の方がいかに住みやすい街にするのか、湖西に住んで仕事もあって住みやすいと感じてもらうことが、経済の発展にもつながるし、湖西市の発展にもつながるので、多文化共生推進プランは他の街と比べても湖西市にとって重要との認識で進めていただきたい。

(会長)

最初の自己紹介の中で、従業員約1/3の方が外国人市民の方とお聞きした。企業の労務管理や、外国人の方と接する中で問題点等がありましたら差支えない程度でお話いただけますか。

(委員)

わりと問題なくみなさん一生懸命にやってくれている。インドネシア人、ブラジル人、ペルー人もいるがあまり問題はない。実習生もいるが、10年以上勤めているベテランも出てきていて非常にうまくいっている。

(委員)

外国人市民が日本語を勉強する意欲は高いため、例えば訓練センターで検定対策用のレベルの高い日本語教育を実施するようなことを、市民安全部と産業部と連携して考えていただければと市に要望したいし、市長にも伝えていただきたい。

(委員)

まず充実させなければいけないのは、外国籍の子どもたちが来たときの子どもの教育と考えている。これをやれば、これからの社会を担っていく人材になってくれる。

(委員)

鷺津小学校は、大勢の外国籍の児童がいるが子どもたちは仲良くやっている。加配教員がいることや、今年度から翻訳機が配布されて通訳員がいないときに子どもや保護者とのコミュニケーションも取りやすくなっている。問題ももちろんあるが、色々な子どもたちと学べる環境は整っていると思う。

また、外国籍の子どもが日本語を勉強していくことももちろん大切だが、ブラジルやペルーの子どもが大勢いるので、その国の文化を知るような学習や、教員も外国の言葉で簡単なコミュニケーションがとれるようなことも必要かなと感じている。

(委員)

最近では、フィリピンやベトナムから来る子どもが増えていると感じている。最近も入学手続きにベトナムの家族が来られたが、保護者が何となく日本語がわかったので何とか手続きはしたが、大切な内容なのでそういった時に通訳が必要だと感じる。

翻訳機も使ってみるととても便利で、県から借りたものを各学校に配置している。

(会長)

他に質問やご意見がございましたら挙手をお願いします。

(事務局)

8月からタブレット端末を使用した多言語ビデオ通訳が市役所内で利用できるようになりました。昨日も利用がありましたし、利用したいという予約が様々な課から入ってきている状況で需要が高いと感じている。外国人市民の約98%の言語をカバーできるので、ぜひお知り合いの方に広めていただきたい。

(委員)

先ほど発言のあった、日本人が海外の文化を理解するということは非常に重要。海外赴任した際に、現地の方が日本の文化を理解しようとしてくれたことで文化のちがいを受け入れやすくなった経験をしたので、子どもたちが海外の文化に触れて簡単なあいさつができるようにしていただけるととても良いと感じた。

そのために、海外から来る大人も、もっと子どもに対して理解を示してもらえないと日本人の子どもたちとの交流ができないなと感じている。自治会でみていて、子どもは中に入り込みやすいが大人につながっていない。大人もつながってくれれば、お互いの理解が

促進されると感じている。交流をお互いにやっていると感ずるので、賛同する。

(委員)

以前学校で多文化共生を推進するためにどうしたらいいのかと話し合ったときに、外国語を勉強していると色々な国の話題が出てくるので、そういうところで外国ルーツの子どもたちのことを考えるきっかけになったり、外国ルーツの子どもたちが活躍する場につながりすることができたらという話になった。

また、ALTの先生が学校にいても孤立してしまうことが多い、日本人の先生が英語が苦手でコミュニケーションがとれなかったりという事実もあるが、多文化共生を教える側としては、ALTの先生とともに働く仲間としてコミュニケーションをとったり ALTの先生を多文化共生の推進に活かすことができたらいいという話もでた。

(会長)

今日場で、意見が出せなかった部分や疑問については、事務局に直接連絡いただければと思います。意見交換はここで終了致します。

以上